

若者の衣服購買行動と環境意識の関連性に関する調査・分析

1240487 西山 花

指導教員 土屋 哲

研究背景

現在、私はジーンズを中核としたカジュアルウェアを販売する専門店でアルバイトをしている。私のアルバイト先では、デニム循環プロジェクトという、不要になった衣料品の回収とリサイクルを目的とする環境保全活動を行なっている。こうした身近なところでの環境保全活動や、ファッション業界全体が抱える環境汚染や労働環境問題を知ることで、ファッションが環境に及ぼす影響について関心を持った。

研究目的

衣服の購買・消費に関して、比較的高価で良質なものを長く使用することが意識づけされ、行動に反映されるとすれば、そうした行動は環境への配慮と強く関連があると言える。そこで、学生のファッションへの関心や服の購買行動から、環境意識や環境への配慮と関係が見られるかどうかを明らかにする。

研究方法

本学生を中心とする 18 歳～22 歳の学生 273 名を対象に、アンケート調査を実施した。回答数には、先行研究による調査分も含まれる。学生のファッションへの興味・関心やブランド意識、衣服への支出額、環境への配慮など他項目にわたる回答結果を集計、分析することで、上記の仮説が正しいかどうかを検証する。

分析結果

今回のアンケート調査の結果から、学生の大多数がファッションに興味・関心があることがわかった。その中でファストファッションブランドを好む人が多数であるがその他の好みのブランドがある人も多くいた。好みのブランド別に環境への意識を分析したところ、比較的安価なファストファッションブランドを好む人の方が環境配慮への意識が高いという結果となり、上記の仮説は否定される結果となった。

考察・結論

残念ながら予想通りにはならなかったが、ファッションに興味・関心がある人の中に環境意識が高い人が比較的多くいることもまた事実である。今後、環境意識や環境配慮行動に関する回答の加工方法や回答者の属性をもっと細かくして分析すると、若者の衣服購買行動と環境意識の関連性について特徴が見いだせる可能性がある。